

「安全対策」にご協力を

教頭 三杉 賢太郎

1月5日に「安全委員会」が開かれました。話の中心は、「ロックダウン」・「避難訓練・避難経路」についてでした。どうすれば子どもたちの安全を守ることができるのか、どうすればいち早く安全に避難させられるのか、保護者の安全はどのように確保すべきか…。1時間ほどで終わるはずの会議は、結局3時間目の終了時刻までかかり、それでも時間が足りませんでした。借用校舎であるため、また保護者の方や図書館に用のある方も校舎内にいるため、さらには扉があちらこちらで開放されているためなど、不特定多数の人が簡単に出入りできるたくさんの要因がそろっており、それだけ本校は安全対策が大変難しいものとなっているのです。

昨年末の校長先生からのメッセージには、「出入口は正面玄関のみ。不審者も遠回りすることにより、面倒に感じて犯行をあきらめるかもしれない。」という内容が書かれていたかと思います。また合わせてe-Bostonにも「出入口は正面玄関のみ」という記事を改めて掲載しました。セキュリティの強化は本校の場合、限界があります。しかし、子どもたちを危険にさらすリスクを減らすことは教職員・保護者全員の協力できると思っています。私はこのメッセージが出た時に、子どもたちの安全を守るために他の扉を使用する方は12時まではいなくなるのかと思いました。

しかし、残念ながら最終日にキッズコーナー側を通りかかった際、正面玄関以外を使用されている方がいらっしゃいました。図書館脇の入り口を使っていたらっしゃる方もいるとの話も聞き、大変悲しくなりました。

実は、私がいた日本の学校で不審者が校舎内に入ってきてしまったことが1度だけあります。もちろん不審者対策の訓練は行っていましたが、しかしそれは授業中を想定してのことでした。不審者の侵入は、そうじの時間中に起こったため、普段閉まっている扉は換気や外へそうじに行く子どもたちの出入り口に使用されていたので開いていました。不審者はその扉から入ってきてしまいました。たまたまその不審者は障害をもった方で、悪意をもっての侵入ではありませんでしたが、結局掃除中、子どもたちが校舎内至る所に散在する中を1階から3階まで全部歩き回っていきました。教員もとびかかる用意はしていましたが、後ろを追いかけることしかできず、何とか校舎外へ出すことはできましたが、警察が来たのはそのあとのことでした。今考えると何もなかったのは奇跡だったのかもしれない。

特に本校は週に一度の学校であり、安全対策を徹底することが非常に難しいのですが、子どもたちは教えるときちんちん行うことができます。今年の避難訓練・ロックダウン訓練では、子どもたち自身がそれを証明しました。それを大人の責任で、リスクを増やしていたのでは何の意味もありません。現在、さらに安全を高められるような訓練となるよう見直しをしています。それは「大切なお子様一人ひとりの命を守る」ためです。「校舎の出入り口は、正面玄関のみ」からご協力いただき、改めて「安全対策」についてご理解・ご支援をお願いいたします。

